



就学前児童における発達障害の早期発見と療育

北名古屋市にある保育園長は、次のように述べています。

私達の保育園は、0歳から3歳未満の乳児を56名受け入れます。発達障害が疑われる場合は、入園前18ヶ月と3歳の乳幼児健康診断における保健センターの所見を確認します。もし子どもの発達に異常が疑われることがあれば、「乳幼児健診後の事後フォロー教室」を案内し、親子が定期的にそちらに通うことをお勧めします(月2回)。さらに支援の必要な方には、「児童発達支援事業所」を紹介します。そちらには、子どもの発達の専門家と専任の保育士がいます。そこで日常生活の基本的動作の取得や集団生活に適應することなどができるようなトレーニングや指導を受けるとともに、保護者が子どもの正しい見方、親としてのあり方などを仲間の中で学ぶことができます。事後フォロー教室は無料ですが、児童発達支援事業所は利用料がかかります。入所希望する場合は、児童発達支援事業所に受給者証の取得が必要です。

前出の保育園長も言います：

発達障害の軽い子どもは、児童発達支援事業所で専門家によるトレーニングを受けた後、集団生活に適應することを学び、もう母親と同伴する必要がなくなれば、保育園に戻って、普通の子どもたちと同じような保育園生活を送ることになります。現在、160人の園児の中では、発達障害の診断を受けた子どもは3人います。毎年発達障害が疑われる子どもは数名いて、他の保育園もほぼ同じ割合です。

保育園は、お子さんが保育園での生活の中で起きた問題を保護者に知らせ、早期対処するために療育施設または病院に行くように提案をします。しかし、すべての親がこの問題を素直に受け止めるとは限りません。これらの子どもたちは家庭環境においてあまり多くの問題が現れないからです。幼い子どもたちの社会性問題は集団生活や変化に應じる必要のある時にはじめて現れます。保育園側が指摘した問題に理解を示さない保護者も、年に2回の保育参観の時には、言われた問題を認識し、対応の仕方を尋ねてくる場合があります。さらに、子どもが5歳になり、小学校に通うために必要とされる社会的な能力を考えるようになると、保護者がわが子の現在の姿を客観的に観察し、保育園側に指摘されたことを真剣に考えるようになるケースが多いです。

それでもわが子の問題を正視できない保護者には、私達はお子さんの姿を発信し続けるしかありません。私達の提案が受け入れられなければ、その子どもが小学校や中学校の段階で適應できないという問題が起こる場合もあります。したがって、自閉症スペクトラムを抱えた子どもにとっては、早期発見早期支援が望ましいです。親の理解が遅れたため効果的な療育タイミングが遅れてしまうことは、その子どもにとって、悔やまれることとなります。



日本のどこもが北名古屋市のようになっているわけではありません。発達障害児の支援において、設備と子育て支援の取り組みの両面から、北名古屋市は充実した福祉施策が整っています。ある雑誌は、「働く女性にやさしい街ランキング 2018」の調査結果を発表しました。北名古屋市が「出産・子育てに向く街ランキング」で愛知県内 38 市中 1 位を獲得しました。このランキングは、「自治体が出産と子育てに対してどのくらいサポートを行っているか」に対して、合計特殊出生率・自治体の女性管理職比率・ファミリーサポートの使いやすさ・自治体のお産、子育てページ・待機児童数などのデータから順位づけされました。北名古屋市の利用者目線の取り組みと働く女性へのサポートが高評価され、発達障害と診断されたわが子のために、わざわざよそから北名古屋市へ移住した親もいます。

保育園長から次の話を聞きました。

ある中国人の子どもが自閉症スペクトラムの症状を示していることを何度も母親に説明したり、発達障害の早期発見早期療育の必要性についても保育園から繰り返し説明したりしましたが、中国ではその子の行動は全く問題ないと母親には受け止めてもらえませんでした。

それが言語の問題で私達の説明を理解しなかったのか、それとも文化のバックグラウンドで発達障害の概念を受け入れることができなかったのかはわかりませんが、それは日本人保護者にはない問題です。親の障害に対する正しい理解は、子どもの将来に影響を及ぼすことは確かだと思います。